

食品ロスの実態とその原因  
 —フードバンク活動の実践を通して—  
 Actual situation and cause of Food Loss

原田佳子 (美作大学)

Yoshiko Harada (Mimasaka University)

要旨

農林水産省によると、食品ロスとは「食べられるのに、廃棄されてしまう食品のことである」と定義されている。2015年農林水産省推計によると、我が国の食品ロスは646万トンある。食品ロスは、限りある地球資源の無駄遣い、環境に負荷を与えるなど多くの問題を抱えている。2015年国連サミットではSDGsが採択され、それに呼応し、わが国でも食品ロス発生抑制、削減の動きが各地で出始め、食品ロス削減やフードバンク（以下FB）活動が盛んになり、それに伴いこれらの研究も増えてきた。しかし、食品ロスの発生が構造的に再生産されることに言及した研究を確認することはできない。食品ロスは、資本主義市場経済の産物である。このことを明確に認識し、食品ロス発生抑制・削減を進めなければ、FB活動を始めこれらの市民活動や行政の施策等が課題の再生産に繋がる可能性が懸念される。筆者は、2007年より広島市安佐北区でFBをおこなっている（名称：あいあいねっと以下FBA）。本稿では、筆者の体験を踏まえ、食品ロスの実態とその原因、及びフードバンク活動の課題に関して言及する。

キーワード：食品ロス、フードバンク、資本主義市場経済

【はじめに】

国際連合食料農業機関（FAO）によると、フードサプライチェーン<sup>1)</sup>で世界の生産量の1/3に当たる約13億トンの食料が毎年廃棄されており、食品廃棄物処理にかかる経済的コストは約7,500億ドル<sup>2)</sup>である。わが国の食品ロスは、図-1に示すように、2015年農林水産省推計によると、646万トンとなっており、これは、わが国の年間の米の生産高の80%に相当し、国民一人当たり一日139gのご飯を廃棄している計算となる。

一方で、図-2に示すように、食料自給率（カロリーベース）は、年々低下しており、主要国中最下位であり、図-3が示すように、多くの食料を外国からの輸入に依存している。

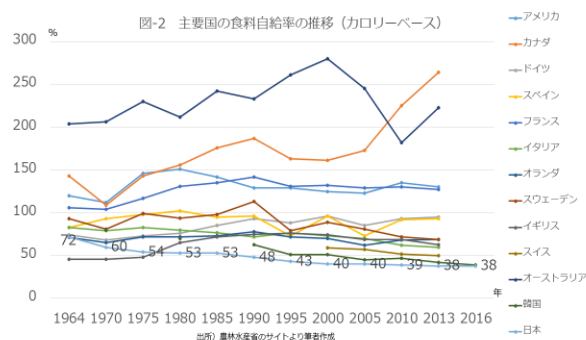
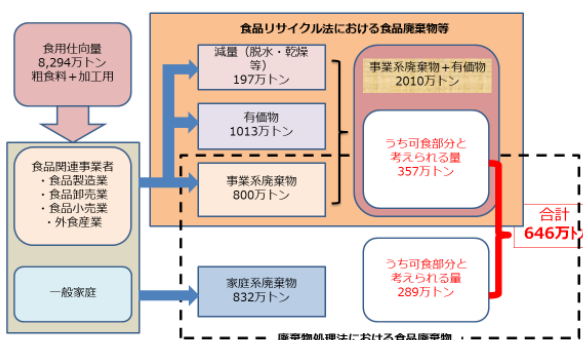
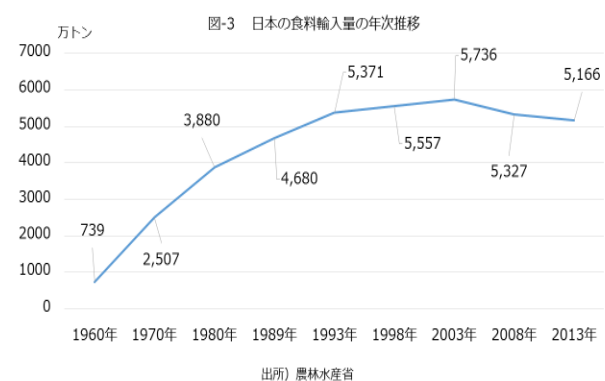


図-1 食品廃棄物等の発生量 (2015年推計)



出所) 農林水産省



出所) 農林水産省

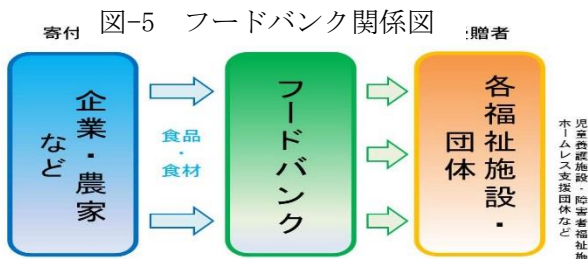
低い食料自給率を輸入食品で賄いながら、一方で大量の食品ロスを発生させ、不合理と不条理が混在しているのがわが国の現状である。

食品ロスは、限りある地球資源の大いなる無駄遣い、環境に負荷を与えるなど様々な問題を抱えている。そこで、2015年国連サミットではFAOの問題提議を受け「持続可能な開発のための2030アジェンダ」SDGsを採択し、2016年以降2030年までの国際開発目標（17のゴールと169の目標）図-4を掲げた。



それに呼応して、わが国では、2016年6月「日本再興戦略2016」において「食品ロス削減に向けて、国民大運動の抜本的強化」3)「サプライチェーンで発生する未利用食品を必要な人や施設に届けるFB活動を推進」を閣議決定した。

【フードバンク活動】



出所) 農林水産省

図-5は、農林水産省が示すフードバンク関係図[1]であるが、FBには学術的定義があるわけではない。「食品関連事業者や農家、個人などから無償で食料の寄贈を受け、それを必要としている個人や団体に無償で分配する活動」と一般的には、解釈されている。わが国には、86ヶ所のFB運営主体4)が存在する（難波江2018）。わが国のFBのミッションは、「生活困窮者救済」「食

品ロス削減」「地域活性」（原田2018）の3つに分類される。筆者がFBAを始めた目的は、少ない年金で適切な食生活を営むことができない高齢者の低栄養予防である。

【食品ロス発生率の主な理由】

食品ロスが発生する主な理由は、表-1の通りである。

表-1 食品ロスが発生する理由

	食品ロスとなっているもの	発生量
食品メーカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>1/3ルールにより期限を超えた食品を返品</li> <li>新商品の販売やパッケージなどの企画が変更されたため店頭から撤去された食品の返品</li> <li>製造過程で発生する印刷ミスなどの食品</li> <li>パッケージが凹んだり破れたりして規格外になった食品</li> <li>重量の過不足の食品など</li> </ul>	357万トン
小売店	<ul style="list-style-type: none"> <li>新商品の販売やパッケージなどの企画が変更されたため店頭から撤去された食品</li> <li>店独自で決めている販売期限を超えた食品</li> <li>パッケージが凹んだり破れたりした食品</li> </ul>	
飲食店	<ul style="list-style-type: none"> <li>客の食べ残し</li> <li>客に提供できなかった仕込済みの食品</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理の時に食べられる部分を捨てている過剰廃棄</li> <li>作ったけど食べずに廃棄する食べ残し</li> <li>冷蔵庫に入れたまま賞味期限や消費期限が超えた手つかずの食品</li> </ul>	289万トン
	合計	646万トン

出所) 政府広報オンラインを参照し筆者作成

以下の写真は、FBAに寄贈された食品のほんの一部である。



- 1：袋が破れた米
- 2：出荷できない野菜
- 3：カット野菜の残り
- 4・5：規格外食品

## 【食品ロスの課題】

- ① 地球資源の無駄遣い
- ② 食品を製造し消費者の手に届くまでにかかった労力、コストなどすべて無駄になる。
- ③ 処分するにも労力とコストがかかる。ゴミの処分には、焼却と埋立てがある。わが国は、国土が狭いため、焼却処分が主流である。しかし、焼却処分場建設には、莫大な費用がかかり、さらに、食品ロスは、水分が多いため焼却炉に負荷をかけ、焼却に際しても多くのエネルギーを必要とする。
- ④ 南アフリカや南アジアなど、爆発的に増加する人口への食糧生産の対応
- ⑤ 経済成長著しい途上国の食料消費の増加への対応
- ⑥ その他

## 【食品ロス発生理由】

個々の食品ロス発生の主な理由は、表-1の通りであるが、これらに共通する食品ロス発生の理由が存在する。以下、説明する。

筆者が、FBを始めて驚いたのは、食品ロスの量が多すぎることに驚いたことである。そこで、食品ロスは、偶発的に発生するものでなく、社会構造的に発生すると考えるようになった。その構造的な原因とは何か。FB活動を展開しながら、食品ロス発生の原因に係る研究を進め、それは、資本主義市場経済にあると理解するに至った。資本主義市場経済において、企業にとって第一の目的は、周知のごとく利潤追求である。そこには、当然競争の原理が働く。他社に負けないために、他社より少しでも多く売って利益を上げる。レッド・オシャンの世界である。もちろん、企業もなるべく食品ロスを出さないように生産や売り上げ目標の綿密な計画をたてて最大限努力するであろう。が、どの世界でも見込み違いが起きる可能性がある。作り過ぎ売れ残ればロスが出る。しかし、足りなければロスが出ないが、利益は見込めず、他社との競争に負けてしまう。

「需要予測→利潤追求→利潤の実現性の考慮→

投資→生産→市場への供給」(保坂 2012) [2]という具合に、資本主義市場経済の特性は、予想に基づいて行動する不確実性が支配する世界である。メーカーや卸売業者にとって、スーパーでの欠品は絶対に許されない。欠品が生じるとペナルティを課せられたり、取引中止になることもある。数年前、美作大学が位置する津山市内のスーパーで「食品ロス削減に関する対策の調査」を行ったことがある。ある店長は「食品ロスより顧客ロスの方が恐ろしい」と回答した。

第二次世界大戦後の高度経済成長による消費社会の形成は、「消費は美德」とまで言われ、多くの消費者が、品薄の店より品揃えも量も豊富な店を選ぶようになり、食べ物はお金で換算できる商品として価値が認められるようになった。そのようにして、食べ物を大切にしなければなどという食べ物に対する尊厳の気持ちが次第に希薄になっていった。

現在、世界では、資本主義市場経済の国がほとんどである。そこに新自由主義、グローバル化が拍車をかけ、さらなる企業間の熾烈な競争が繰り広げられ、生産ラインの効率化、物流の発達、消費者への購買意欲の促進等々を押し進め、必然的に膨大な食品ロスが発生するのである。

## 【食品ロスに係る今後の課題】

FBを展開している活動主体者として、食品ロスに係る今後の課題に関してまとめる。

- ① 行政や地方自治体、FB運営主体、食品ロスやFBに関して研究している研究者に、食品ロス発生は、資本主義市場経済の産物であることを認識する必要がある。
- ② 食品ロス削減の一つの方法として、国はFB活動に力を入れるとしているが、多くのFBが一番注力しているのは、生活困窮者救済である。わが国のFB全体が取り扱っている食品ロス量は、年間0.1%にも満たない(難波江 2018)。FBが食品ロス削減に貢献しているとは言い難い。その原因を明確にする必要がある。

- ③ 資本主義市場経済は物資の代謝を攪乱させると一般的に知られているが、FB活動が、この課題解決にどう対応するのか明確にする必要がある。フードバンクの存在意義の明確化である。
- ④ 図-1に示すように、食品ロスは、食品関連企業と一般家庭から発生する。しかし、食品関連企業と一般家庭の食品ロスは、発生理由が基本的に異なる。食品関連企業は、意図的に食品ロスを発生させている。が、一般家庭の場合は、食べ物を大切に作る心の欠如や自分に適切な食べ物の量や種類を把握していないことから生じることが多いと考える。食品関連企業は、食品ロス。一般家庭は、もったいないという表現するのが、今後、食品ロス削減の方策を講じるのに適切ではないだろうか。

#### 【註】

- 1) 食べ物の生産から消費に至るまでのこと
- 2) 83兆円 (2019/2/18 レート 1\$=110円)
- 3) わが国の食品ロスと廃棄に関する取り組みや研究は、農林水産省が2008年に開始した「食品ロスの削減に向けた検討会」を経て、2013年6つの府省が主体となり、「食品ロス削減国民大運動」を開始した。

#### 【引用文献】

- [1] 農林水産省、フードバンク  
[http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/foodbank.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank.html) アクセス日  
2019/2/18
- [2] 保坂直達, 2012, 『資本主義とは何か』, 桜井書店, pp. 81-82

#### 【参考文献】

- 株式会社三菱総合研究所, 2016, 国内のFBの活動実態把握調査
- 公益財団法人流通経済研究所, 国内FBの活動実態把握調査及びFB活用推進情報交換会実

施報告書 (2017)

- 原田佳子・増井祥子・糸山智栄・石坂薫 著, 2017, 『未来にツケを残さない』, 高文研,
- 難波江 (2018) 「フードバンク事業の機能と他事業との連携効果について」研究誌『地域活性研究 vol. 9』
- 原田佳子 (2018) 「今後のわが国のフードバンク活動の方向性」研究誌『地域活性研究 vol. 9』